

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070200411		
法人名	医療法人 心泉会		
事業所名	グループホームローズガーデン		
所在地	松本市大字中山7494-8		
自己評価作成日	平成21年10月22日	評価結果市町村受理日	平成22年1月22日

事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.k-kohyo.pref.nagano.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070200411&SCD=320
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	松本市蟻ヶ崎1-4-46メゾン蟻ヶ崎103
訪問調査日	平成21年11月17日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<ul style="list-style-type: none"> ・老人保健施設の併設型グループホームとしてのメリットを最大限に活かすこと ・併設施設の医療面のバックアップによる安心機能。 ・併設施設の設備や職員を利用することで、よりバリエーションを広げた生活環境の構築。 ・恵まれた自然環境の基で、四季の移り変わりを感じながら仲間と生活する喜びを感じていただくこと。 ・地域の皆さんとの交流や訪問していただく方々との親睦を深めること。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<ul style="list-style-type: none"> ・併設施設との日常的な交流・連携・協力体制が確立し、管理者が医師であり医療面でのサポートも充実しており、利用者・家族から高い信頼・安心を得ている。 ・過去の外部評価での課題について運営推進会議での話し合いや、職員全員での改善への取組で、地域とのかかわりや外出の機会を増やして生活の質を向上させている。 ・また、事業所内での食事・おやつ作り、プランターでの野菜作り等、利用者の活躍できる場面作りに検討が加えられている。 ・初めてのターミナルケアの取組等、前向きな姿勢と積極的な取組で、サービスの質の向上に取り組んでいる姿が確認できた。 ・利用者・家族の意向をくみ取る仕組み、外部からの多様な意見を取り入れる工夫、個人の記憶から組織・事業所の記録への改革、人権に関する定期的な内外の研修、利用者との水平目線での支援等、見直しや検討をすると、より高度な認知症対応型グループホームと成り得る事業所である。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	63	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	64	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	66	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	職員は、活き活きと働けている (11, 12)	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	68	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念はあるが、グループホームとしての事業所独自の理念ができていない。	法人としての理念はあるが、サービスの原点としてのわかりやすい言語化・職員の意識付け・抛り所までには至っていない。	法人の理念を基に全職員で事業所独自の理念を作成し共有することを望みたい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に行う運営推進会議により、地域の方々との意見交換を行うと共に、地域の福祉広場や各種行事への参加もやっている。	立地条件で近隣住民との日常的な関係は少ないが、地域活動への参加・小中学生・地域ボランティアとの交流等、前向きに関わりに努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において認知症やグループホームの説明を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議は定期的で開催しており、日々のグループホームの様子や、取組み等の報告を行い、意見交換をしている。いただいた意見については、前向きに検討している。	定期的で開催されている会議では、評価結果やホームでの取り組み状況の報告・意見交換、地域の情報収集、またホーム行事への参加を促し、利用者の様子を知ってもらう努力をしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは、運営推進会議にて意見交換をしており、行政担当者とは、制度についての意見交換等を行っている。	運営推進会議でモニター役での意見交換、また必要に応じての協力関係は築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より、身体拘束はしないことを徹底している。(各居室にも施錠しない)	施錠はもとより、身体拘束をしない自由な生活を支援している。	人権に関する研修は定期的なものにして、全職員の認識の共有化を更に進めることを望みたい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人や施設内で研修会や勉強会を行っている。また、利用者に少しでも異常があると思われる場合は、全スタッフで確認し原因の究明を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで、学ぶ機会がなく、今後勉強していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、事務部門で行うようになっているため、今後はグループホームの担当者が行うように変更していきたい。内容の疑問等についてはその都度スタッフが説明をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に面会時にご家族の方の意見を聞くようにしており、ケアプランについても説明している。	運営推進会議での家族代表の意見表出や、面会時に何でも言いやすい場面作り、管理者への直接相談等、出された事柄について運営に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設施設との定例会議や、グループホームの毎月のミーティングにおいて検討されている。	施設全体会議・ホーム会議で職員の意見・気づき、管理者からの提案で、サービスの質の向上に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、法人において新たな人事評価制度を構築中であり、職員全員で協力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針として、個人のスキルアップのための研修計画や各種資格取得への応援態勢が整備されている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松本圏域のグループホームの定例研修会への参加や、長野県同業者のネットワークに加盟しており、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居の際は、ご本人と十分に話し合いを行い、どのように生活を営みたいのかをお聞きして、希望に沿えるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居の際には、ご家族とも十分な話し合いを行い、グループホームでの生活について、ご本人の希望や不安などを検討している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、ご家族との話し合いの中で、こまめに対応できるように努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>食事の準備や盛り付け、後かたづけ、味噌汁作り、おやつ作りをいっしょに行うことでコミュニケーションをとりながら、仲間としての関係を築いている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ケアプランの見直しをご家族とともにしながら、常に同じ立場でご本人のことを考えるような関係を築くことを心掛けている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方の面会をお願いしたりしているが、馴染みの場所等の把握はできていない。今後の検討課題である。</p>	<p>面会は随時お願いし、馴染みの人や場所への外出支援の課題を把握し検討している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人ひとりの個性を尊重し、大切にすることで、利用者同士のトラブルに配慮しながら、協調していく関係作りを目指している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、必要に応じ相談や助言を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、どのように生活をしていきたいのか、どんなことをしたいのか、コミュニケーションの中から汲み取れるように努力している。	共に過ごす日々の生活場面や家族からの情報を基に、希望・意向の把握をして、その人らしい暮らしを支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のご家族との話し合いや、ご本人との会話の中から、これまでの様々な情報についての把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が日々の様子を観察することで、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係する部署や以前の様子を知っている方からの情報、またご家族からの意見を取り入れて、スタッフ全員で介護計画を作成している。	本人・家族の意向、関係職種の情報を集約して介護計画を作成している。定期的なADL評価や認知度の把握を行い、状態の変化を把握して見直しに活かしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録を詳細に行うことで、職員間で情報を共有し、介護計画の作成に反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員を増やしたことにより、突発的な状況や個別のニーズに対応できるように工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉広場に参加したり、ボランティアの方々、小中学生との交流を積極的に行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院はもとより、本人の希望があれば、かかりつけの医療機関への付き添いも行っている。	本人・家族の希望に沿った医療機関での受診、要請があれば付き添いも行っている。管理者が医師であり、本人の状態把握・医療機関との連携は、本人・家族の安心となっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健の看護師には、日々利用者の状況を伝えており、状況に応じた適切な指示を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは日々連携をとっており、情報交換を行うことで、ドクターやナースとの協働もできている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時や終末期の対応については、ご本人やご家族の意向は確認されており、医師、看護師、職員の間では、意向に沿えるように話し合いが行われており、方針は共有されている。	本人・家族の希望で、ターミナルケアを関係職種・医療機関との連携で実施している。	初めての重度化・看取りを基に、関係スタッフの参画による、対応指針・マニュアル等の文書化を期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていないので、今後の課題である。但し、急変時には併設施設より看護師のサポートは速やかにおこなわれる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との合同の防災訓練は定期的に行われている。訓練には隣接の他の事業所も参加しており、協力体制も構築されている。	定期的な併設施設との合同避難訓練の実施と、地域・他事業所との協力体制は整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時は小声で声かけをするなど、一人ひとりに合った対応を心掛けています。また、本人が気にするようなことは、話題にしないように注意しています。	日常のケアの中で、プライバシーへの配慮は確保されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせた声かけを行い、ご本人の意見や希望を職員がしっかりと把握できるように対応しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活のリズムが違うということを理解し、個別の声かけの中で本人の希望を把握する様に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご本人の希望を聞き、好きな洋服を選んで着ていただいている。また、髪型を変えたり、アクセサリーをつけたりしておしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付けをいっしょに行っている、味噌汁は具材の調理から行い、味付けも一緒に行っている。	併設施設での調理から、献立作り・買い物・調理・片付けと、定期的にホームでの調理を実施して、それぞれの役割を作り、活動の場を広げた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量については、個人の状態や好みに合わせて対応している。水分については、食事やお茶だけでなく、こまめに摂取していただけるよう工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後に歯磨きを行っている。自分でできる方は本人が、できない方は職員が行うとともに、最終的に確認は職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに最大限の配慮をしながら、できるだけ自立してできるように努めている。	プライバシーに配慮した言葉がけ・対応を行ない、できるだけ自立できる排泄支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活の中で、ヨーグルトや水分摂取を促しながら、毎日体操も行っている。また、便秘がちな方には、個別に乳酸菌飲料を飲んでいただくなどの配慮をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、定期的に行うことが多いため、今後は本人の希望の時間帯や曜日に対応できるように工夫していきたい。	午前と午後の時間となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいときには、いつでも休めるように個人個人のリズムを大切にしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理しているが、薬の具体的な内容までは把握できていないので、今後はカンファレンスで勉強していきたい。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手先が器用で工作が好きな方については、工作教室に参加していただき、昔畑仕事で得意だった方には、プランターで野菜作りをしていただくなど、好きな事を活かす場を提供できるように工夫している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に回転寿司などの外出に行くほか、ドライブや食材などの買い物、季節に合わせたお出かけを企画している。また、家族との外出や外泊についても積極的に支援している。	福祉ひろばへの参加・外食・喫茶店・買い物・手作り弁当でのピクニック等、気分転換・五感刺激を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方には、本人に管理をお願いしている。自分で管理ができない方については、事務所で預かりして管理している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話や手紙のやりとりの支援は行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の生活感や季節を感じられるように、小物や飾り付けには工夫を凝らすようにしており、テレビの音量や照明にも不快な感じにならないように配慮している。	居心地の良さと安心があり、殆どの時間を居室でなくホールで過ごしている。癒しとなっている室内犬もスタッフの一人といえる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方が同士が自由に過ごせるように、椅子や机を数か所に置いている。また、入居者の方が好きな場所を職員が把握して、誘導する様に配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ馴染みの物や愛用している物を部屋に置くようお願いしているが、まだまだ思うようにできていないのが現状で、課題の一つです。	利用者によって馴染みの物をそろえたり、ホームで作った作品を飾ったりと、その人らしい雰囲気の部屋となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はスペースが広く、歩行訓練やリハビリテーションを行うことが容易である。また、安全には最大限の配慮をして生活していただいています。		